

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	政策総務部 財務課		
基本構想	生活の質の向上と定住人口の確保	重点的方針	1-5 地域コミュニティの醸成支援		
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	事業費補助方式の検討(No.74)		
予算等事業名	事業費補助方式の検討				
目的	現在、多数ある団体補助金について、事業費補助方式による効果的な補助とすることが可能か検討を行う。				
内容	・庁内各課検討				
根拠法令・条例等	—				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	平成29年度中において、各課で補助金算定の要綱を整備する予定であり、補助対象事業等を明確にすることにより、検討可能。一方、補助金から、交付金、負担金化するものも想定されるため、歳出全体としては、不透明である。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	交付規則の改正、ガイドラインの制定により、統一的な基準での補助金の運用が可能となる。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	スケジュールに沿い、規則等の改正を実施する。	

総合評価

実績	補助金交付規則を全部改正し、各補助金については、交付要綱の整備がされた。				
中間評価との相違点	ガイドラインの制定は、各補助金の運用状況を鑑み、策定を見送った。				
事業指標(数値指標)	検討回数				
中期(29年度)目標値	2			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	検討時期: 決算報告提出時期(事前に提出される交付申請とともに検討)、査定時期の2回	
	2	2			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		0	0	0	0		
財源内訳	一般財源	0	0	0	0		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 各補助金の交付要綱を整備したことにより、一定の交付基準が明確になった。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町から各団体への補助金であり、町が主体で行う必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 交付要綱の制定により、補助金の目的や交付の算定根拠が明確となった。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 職員に関する費用以外には、発生していない。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 規則の改正、各補助金の交付要綱の制定が実施された。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 交付基準に関する一定の基準が設けられたが、今後の見直しの時期等について、検討を行っていく必要がある。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 (3年、5年後等)適切な時期に、補助金の算定基準等、見直しを実施し、団体への補助が形骸化していかなぬようにする必要がある。	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	政策総務部 財務課	
基本構想	戦略的行政運営	重点的方針	4-2 戦略的な自治体運営及びスリムな財政運営の推進	
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	財政管理事業(No.86)	
予算等事業名	財政管理事務経費			
目的	これまで整備を進めてきた、「固定資産台帳(公会計管理台帳)」と、決算年度の会計データを発生主義に基づき複式的に自動仕訳を行う「公会計システム」を連携し、「統一的な基準」を用いた、財務諸表を作成する。また、従来の手法では見えなかった財務情報が、より精緻な財政の全体像として明らかとなり、今後の行政運営に活用することが可能となる。			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新地方公会計システムの管理・運用 ・財務諸表の活用、公表 			
根拠法令・条例等	—			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>
	③ 未実施			
②、③に対する理由				

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	今年度実施している統一的な基準への移行に関する費用は削減されるが、財務諸表の作成委託については、専門的知識を有する業者へ委託することにより、業務効率が図られるので、削減は困難である。			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	委託業務の内容は変わっていないため、これまで以上の効率化は困難。			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】	
	国の要請に基づき実施しているが、専門的要素が強く、事務的負担が大きい。活用方法等についても研究が必要。	

総合評価

実績	委託業務が完了し、財務諸表の作成が完了した。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)				
中期(29年度)目標値	1回			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	連結財務4表の納品回数
	1回	1回		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		948	947	4,784	4,126		
財源内訳	一般財源	948	947	4,784	4,126		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	B
	【説明】 国の要請に基づき実施している事業であり、業務が専門的であるため、公費の投入が必要となる。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	C
	【説明】 専門的知識を有する業務であり、委託が不可欠である。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 財務諸表が作成され、今後どのような活用をしていくかの研究が必要。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 平成29年度は、統一基準化による費用が例年とは別に発生した。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 今後の活用に向けて、研究が必要である。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 国の要請では、地方公会計の整備、公表、予算編成への活用となっているが、予算編成への活用となると非常にハードルは高く、小規模な自治体における事務負担が大きい。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 各種統計情報の簡素化について、機会を伺い、要望をしていく必要がある。	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	政策総務部 財務課	
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点の方針	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり	
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	情報システム運営事業(No.88)	
予算等事業名	契約検査事務管理経費			
目的	電算の運用経費であり住民情報・財務会計システム等の安定稼働及び事務の省力化・効率化を図る。また、かながわ電子入札共同システムを活用し、適正な入札執行を目指す。			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・入札参加者選考委員会の運営 ・電子入札の実施 ・共同システムの運営 			
根拠法令・条例等	—			
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	神奈川県で一括入札を行っているため。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	電子入札が定着してきたため、入札に関する事務が電子媒体で処理できるため、事務の効率化へつながっている。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	電子入札システムを活用し、適切な入札執行、入札事務の効率化を図る。	

総合評価

実績	電子入札システムの定着により、入札の事務の効率化が図られている。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	電子入札実施件数			
中期(29年度)目標値	84			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	過去3年間の平均が84件であったため。
	88	106		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,156	2,156	1,788	1,788		
財源内訳	一般財源	2,156	2,156	1,788	1,788		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 県において、構築したシステムを利用しているため。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 県において、構築したシステムを利用しているため。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	A
	【説明】 電子入札が浸透し、事務の効率化につながっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 県でシステムを一括構築し、費用を負担することで、安価で実施できていると考えられる。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 電子入札システムを活用し、適切な入札執行、入札事務の効率化を図れている。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	政策総務部 財務課		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり		
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.89)		
予算等事業名	庁舎維持管理経費				
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。				
内容	・維持経費				
根拠法令・条例等	-				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	機能維持に係る経費削減や効率的な修繕は引き続き行うが、施設(設備含む)の更新が必要な状態であるため、経費削減は困難である。				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	今後の施設(設備含む)の更新においては、調査委託の結果をもとに計画を策定することで効率的な更新が可能である。				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 本年度の「庁舎整備手法調査委託」の結果をもとに方向性を示したい。	

総合評価

実績	庁舎の機能及び環境の維持を図っている。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	経費の減少				
中期(29年度)目標値	庁舎の機能及び環境の維持			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	-	-			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		28,731	26,090	34,976	34,229		
財源内訳	一般財源	28,731	26,090	34,976	34,229		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 行政サービスの拠点である役場庁舎の機能及び環境維持は必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 町主体の維持管理を基本とし、各設備保守等を必要に応じ委託する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 庁舎の機能及び環境の効率的な維持管理がはかれている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 庁舎機能の維持において、経費節減等行っているが設備修繕及び更新について長期的な計画を作成することでより効果的な運用管理をする必要がある。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 機能維持において、経費節減等行っているが設備修繕及び更新について長期的な計画を作成することでより効果的な運用管理をする必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	政策総務部 財務課	
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり	
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.89)	
予算等事業名	財産管理経費			
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・維持経費 ・公有財産システム保守 ・東大果樹園跡地維持 ・公共施設白書(H24.3)の追加、修正 ・再配置基本計画(実施計画策定) ・公共施設予約システムの検討 			
根拠法令 ・条例等	—			
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか				
<input type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input checked="" type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/> ③ 未実施
②、③に対する理由	公共施設予約システムについて平成31年度からの稼働に向け検討している。			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか				
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難	
理由	機能維持に係る経費削減や効率的な修繕は引き続き行うが、施設(設備含む)の更新が必要な状態であるため、経費削減は困難である			

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか				
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難	
理由	今後の施設(設備含む)の更新においては、長期的な計画を策定することで効率的な更新が可能である			

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】	
	公共施設予約システムの導入については、利便性や価格面に着目し、導入に向けた検討を進める。	

総合評価

実績	公有財産の適切な管理がはかられている。			
中間評価との相違点				
事業指標(数値指標)	経費の減少			
中期(29年度)目標値	公有財産の適切な管理			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	-	-		

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		9,304	8,513	13,084	12,089		
財源内訳	一般財源	9,304	8,063	13,084	12,089		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 町有財産の適切な管理を町が実施することは妥当である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 町主体を基本としているが、必要に応じ委託する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 成果が上がっているといえる。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	【説明】 維持管理に係る経費節減や効率的な修繕等行っているが、より効率的に行うため長期的な計画が必要である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 引き続き、効率的な財産管理を実施していく必要がある。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 ・公有財産の適切な維持管理 ・利便性向上のため、公共施設予約システム導入の検討	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 公共施設予約システムの導入検討を関係課と調整をおこなっていく。	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	政策総務部 財務課		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり		
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.89)		
予算等事業名	庁用車管理経費				
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・維持経費 ・自動車借上 ・電気自動車導入の検討 				
根拠法令 ・条例等	—				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理 由	車両更新時の競争入札等により、経費削減を検討することができる				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理 由	リース車両と購入車両の各メリットを生かした導入の検討により効率化を図ることができる				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 リースによる車両更新を進めてきたが、耐用年数等を勘案すると、必ずしもリースに優位性がある訳ではなく、いま一度検証する必要がある。	

総合評価

実績	低公害車2台導入(新規導入)				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	経費の減少				
中期(29年度)目標値	3台			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度	第2次環境基本計画実施計画の目標値より	
	3	2			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		6,177	5,861	6,712	6,178		
財源内訳	一般財源	6,177	5,861	6,712	6,178		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	A
	【説明】 庁用自動車を庁舎等に配置することで住民対応を主とした業務遂行をより迅速に行うため、実施することは必要である。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	A
	【説明】 町が主導となり推進していく必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	A
	【説明】 庁用車の適切な配置により成果が上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	A
	【説明】 リース車両の導入により、費用負担の均等化を図ることができている。	
総合評価	A:妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B:妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C:事業全体を見直す必要がある D:事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 庁用車の適切な配置や、環境に配慮した車両の更新など引き続き、庁用車の運用の推進を図る。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	政策総務部 財務課		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり		
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.89)		
予算等事業名	一般経費				
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。				
内容	・各種管理責任者講習				
根拠法令・条例等	—				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由			

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか	
<input type="checkbox"/>	① 検討できる
<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	法律に基づく講習であり、管理者変更時に受講が必要となるため

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか	
<input type="checkbox"/>	① 検討できる
<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	法律に基づく講習であり、管理者変更時に受講が必要となるため

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 防火管理者、特別管理産業廃棄物管理責任者の講習については、必須であるため継続する。そのほかに必要に応じて草刈機などの機械に関する講習会への参加を検討する。	

総合評価

実績	講習の受講		
中間評価との相違点			
事業指標(数値指標)	経費の減少		
中期(29年度)目標値	講習の受講回数 2回		【目標値の根拠または数値で表わせない指標】
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	2	0	

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		77	43	70	42		
財源内訳	一般財源	77	43	70	42		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	A
	【説明】 法律に基づく講習であるため、町で実施する必要がある。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
	【説明】 法律に基づく講習であるため、町で実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 管理者の変更に伴い受講しており、成果が上がっている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 管理者の変更に伴い受講しており、適切である。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	A
	【説明】 管理者の変更などによる必要に応じ受講しているため、引き続き事業を実施する。	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	政策総務部 財務課		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり		
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.89)		
予算等事業名	町民センター維持管理経費				
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。				
内容	・維持経費				
根拠法令・条例等	—				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	機能維持に係る経費削減や効率的な修繕は引き続き行うが、施設(設備含む)の更新が必要な状態であるため、経費削減は困難である		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	今後の施設(設備含む)の更新においては、長期的な計画を策定することで効率的な更新が可能である		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】	
	引き続き維持管理に努めるが、老朽化が顕著であることから必要な改修等については、計画的に進めていきたい。	

総合評価

実績	町民の文化活動の振興やコミュニティづくりの場としてまた、庁舎機能の一部として活用できている				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	経費の減少				
中期(29年度)目標値	施設の適切な管理			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	-	-			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		13,546	13,305	21,158	20,585		
財源内訳	一般財源	13,546	13,305	21,158	20,585		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	B
	【説明】 町民の文化活動の振興やコミュニティづくりの場として、また、庁舎機能の一部として現在活用しているが、今後の運営については、類似施設との総合的な運営により、妥当性を検討することも必要である。 (2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	A
有効性	【説明】 庁舎機能の一部として利用があることや効率的な運用の観点からも町主体の維持運営を基本とし、各設備保守等を必要に応じ委託する必要がある。	
	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
効率性	【説明】 町民の文化活動の振興やコミュニティづくりの場としてまた、庁舎機能の一部として活用しつつ、効率的な維持運営が図れているといえる。	
	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
総合評価	【説明】 機能維持に係る経費節減や効率的な修繕等行っているが、より効率的に行うため長期的な計画が必要である。	
	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 老朽化した建物及び設備の計画的且つ効率的な更新を計画的に行う必要がある。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 最低限必要な維持管理を継続するとともに、今後の整備についても検討したい。	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	政策総務部 財務課		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり		
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.89)		
予算等事業名	駅前町民会館維持管理経費				
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・維持経費 ・再配置の検討 				
根拠法令 ・条例等	-				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	老朽化が顕著であることから、閉館に向けた準備を進めているため				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	老朽化が顕著であることから、閉館に向けた準備を進めているため				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	D
	【説明】	
	老朽化が顕著であること、及び耐震性に課題があることから、閉館に向けた準備を進める	

総合評価

実績	平成30年3月31日をもって廃館					
中間評価との相違点						
事業指標(数値指標)	経費の減少					
中期(29年度)目標値	施設の適切な管理			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】		
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度			
	-	-				

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,101	1,812	2,140	1,892		
財源内訳	一般財源	2,101	1,812	2,140	1,892		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1)公費を投入して実施することが妥当な事業か A:妥当 B:どちらかといえば妥当 C:妥当ではない	B
	【説明】 町民の文化活動の振興やコミュニティづくりの場として現在活用しているが、今後の運営については、類似施設との総合的な運営をおこなった。	
妥当性	(2)町が主体となって実施する必要があるか A:町が行わなければならない B:町が行ったほうがよい C:委託等の必要がある	B
	【説明】 効率的な運用の観点からも町主体の維持運営を基本とし、各設備保守等を必要に応じ委託する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A:十分成果が上がっている B:成果が上がっている C:成果が上がっていない	B
	【説明】 町民の文化活動の振興やコミュニティづくりの場として活用されており、効率的な運営ができた。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A:適切である B:改善の余地がある C:効率的ではない	B
	【説明】 光熱水費節約や観光協会との連携等による経費節減などを実施した。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	D
	【説明】	
	平成30年3月31日をもって廃館	
	【理由】	
	※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 平成30年3月31日をもって廃館	
【今後の方向性】		
※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 平成30年3月31日をもって廃館		

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	政策総務部 財務課		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり		
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.89)		
予算等事業名	老人憩いの家維持管理経費				
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・維持経費 ・地区要望工事 				
根拠法令 ・条例等	—				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか			
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難
理由	機能維持に係る経費は地域への交付金で対応し、修繕等についても削減に努めており、施設の老朽化が進んでいるため経費削減は困難である		

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか			
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難
理由	施設の存続等の長期的な計画を策定することで効率的な更新が可能である		

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 老朽化またはバリアフリーの観点から課題が多い施設となっており、地区要望等を勘案し、適宜対応を進めていきたい。	

総合評価

実績	老人憩いの家の統括的かつ効率的な運営がはかれている。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	経費の減少				
中期(29年度)目標値	施設の適切な管理			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	-	-			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,887	2,713	4,897	4,832		
財源内訳	一般財源	2,887	2,713	4,897	4,832		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	B
	【説明】 現在、町民の文化活動の振興やコミュニティづくりの拠点として活用されているが、今後の運営については、類似施設との総合的な運営により、妥当性を検討することも必要である。	
妥当性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	【説明】 利用及び施設への意見・要望が各地域主体のため、統括的かつ画一的な運営や判断について町主体で実施する必要がある。	
有効性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	【説明】 町民の文化活動の振興やコミュニティづくりの拠点として活用されている。	
効率性	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	【説明】 経費節減しつつ効率的な運営が図れている。	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】 機能維持において、経費節減等行えているが長期的な計画を作成することでより効果的な運用管理をする必要がある	
	【理由】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 老朽化した建物の機能維持及び継続的な維持経費節減並びに存続・廃止を含めた計画策定の必要がある。	
	【今後の方向性】 ※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入 自治会活動、通いの場など、地域に根ざした活動が行われているが、今後の人口減少、高齢化の進行などによるニーズの変化を予測し、施設数、機能などを検討していく。	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	政策総務部 財務課		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-2 公共施設の総合的マネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり		
分野別方針	自治体経営	実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.89)		
予算等事業名	児童館維持管理経費				
目的	公共施設の適切かつ効果的な管理と再配置、及び、行財政運営の効率化による経費の重点配分。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・維持経費 ・地区要望工事 				
根拠法令 ・条例等	—				
体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施	<input type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input type="checkbox"/>	① 検討できる	<input checked="" type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	機能維持に係る経費は地域への交付金で対応し、修繕等についても削減に努めており、施設の老朽化が進んでいるため経費削減は困難である				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	施設の存続等の長期的な計画を策定することで効率的な更新が可能である				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
【説明】	老朽化またはバリアフリーの観点から課題が多い施設となっており、地区要望等を勘案し、適宜対応を進めていきたい。	

総合評価

実績	児童館の統括的かつ効率的な運営がはかれている。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	経費の減少				
中期(29年度)目標値	児童館の適切な管理			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	-	-			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		2,200	2,175	2,712	2,693		
財源内訳	一般財源	2,200	2,175	2,712	2,693		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	B
	<p>【説明】</p> <p>現在、町民の文化活動の振興やコミュニティづくりの拠点として活用されているが、今後の運営については、類似施設との総合的な運営により、妥当性を検討することも必要である。</p>	
有効性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	<p>【説明】</p> <p>利用及び施設への意見・要望が各地域主体のため、統括的かつ画一的な運営や判断について町主体で実施する必要がある。</p>	
効率性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	<p>【説明】</p> <p>町民の文化活動の振興やコミュニティづくりの拠点として活用されている。</p>	
総合評価	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	A
	<p>【説明】</p> <p>経費節減しつつ効率的な運営が図れている。</p>	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	<p>【説明】</p> <p>機能維持において、経費節減等行えているが長期的な計画を作成することでより効果的な運用管理をする必要がある。</p>	
	<p>【理由】</p> <p>※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入</p> <p>老朽化した建物の機能維持及び継続的な維持経費節減並びに存続・廃止を含めた計画策定の必要がある。</p>	
	<p>【今後の方向性】</p> <p>※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入</p> <p>自治会活動、通いの場など、地域に根ざした活動が行われているが、今後の人口減少、少子化の進行などによるニーズの変化を予測し、施設数、機能などを検討していく。</p>	

基礎評価シート(平成29年度実績)

		担当部課等名	政策総務部 財務課		
基本構想	交通環境と防災対策の向上	重点的方針	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり		
分野別方針	環境、防災	実施計画事業	公有財産管理運営事業(No.89)		
予算等事業名	防災コミュニティーセンター管理事業				
目的	町の防災力の向上及び危機管理体制の強化を図り、災害時における迅速な応急活動に努める。				
内容	・防災コミュニティーセンター維持管理、運営				
根拠法令・条例等	二宮町防災コミュニティーセンター条例				
体制	<input type="checkbox"/> 町職員実施	<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託あり	<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> その他	

中間評価(10月1日現在)

1) 実施計画に示す事業内容どおりに進捗しているか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 計画どおりに進捗している	<input type="checkbox"/>	② 計画より遅れている	<input type="checkbox"/>	③ 未実施
②、③に対する理由					

2) 現時点の状況から次年度以降の経費の削減等は検討できるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 削減は困難		
理由	施設管理の在り方を検討していくことで、経費の削減も併せて検討できる				

3) 今まで以上の事業の効率化は図れるか					
<input checked="" type="checkbox"/>	① 検討できる	<input type="checkbox"/>	② 効率化は困難		
理由	施設管理の在り方を検討して行くことで、併せて事業の効率化も検討できる				

中間評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	【説明】	
	コミセン毎に利用率が大きく違うため、利用率の低いコミセンの利用促進を図る必要がある。	

総合評価

実績	町民のコミュニティーづくりの場として活用できている。				
中間評価との相違点					
事業指標(数値指標)	防災行政無線難聴箇所数、防災会議開催回数				
中期(29年度)目標値	施設の適切な管理			【目標値の根拠または数値で表わせない指標】	
実績値	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	-	-			

事業費の推移と財源の内訳

(単位:千円)

		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
直接事業費		9,224	8,769	9,213	8,807		
財源内訳	一般財源	0	0	9,213	8,807		
	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		

事業の項目別評価

妥当性	(1) 公費を投入して実施することが妥当な事業か A: 妥当 B: どちらかといえば妥当 C: 妥当ではない	B
	<p>【説明】</p> <p>平常時は、町民のコミュニティづくりの拠点として活用されているが、今後の運営については、類似施設との総合的な運営により、妥当性を検討することも必要である。</p>	
有効性	(2) 町が主体となって実施する必要があるか A: 町が行わなければならない B: 町が行ったほうがよい C: 委託等の必要がある	B
	<p>【説明】</p> <p>効率的な運用の観点からも町主体の維持運営を基本とし、各設備保守等を必要に応じ委託する必要がある。</p>	
効率性	成果が上がっているか A: 十分成果が上がっている B: 成果が上がっている C: 成果が上がっていない	B
	<p>【説明】</p> <p>町民のコミュニティづくりの拠点として活用されている。</p>	
総合評価	費用をかけずに成果をあげているか A: 適切である B: 改善の余地がある C: 効率的ではない	B
	<p>【説明】</p> <p>経費節減しつつ効率的な運営が図れている。</p>	
総合評価	A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き事業を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 事業全体を見直す必要がある D: 事業継続の必要性がない(休止・廃止)	B
	<p>【説明】</p> <p>機能維持において、経費節減等行えているが長期的な計画を作成することでより効果的な運用管理をする必要がある。</p>	
	<p>【理由】</p> <p>※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入</p> <p>老建物の機能維持及び継続的な維持経費節減に向けて計画策定の必要がある。</p>	
	<p>【今後の方向性】</p> <p>※総合評価がB、CまたはDの場合のみ記入</p> <p>当初の設置目的の意義が希薄化しており、実質的に地域集会施設としての利用が中心であることから、位置付けの変更、地区への移管して町直接管理を見直すなど、今後に向けてあらかじめ検討を進める必要がある。</p>	